



平成25年8月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年1月15日

上場会社名 株式会社鉄人化計画 上場取引所 東  
 コード番号 2404 URL http://www.tetsujin.ne.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 日野 洋一  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役執行役員管理本部長 (氏名) 浦野 敏男 (TEL) 03-5726-8440  
 四半期報告書提出予定日 平成25年1月15日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年8月期第1四半期の連結業績(平成24年9月1日～平成24年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年8月期第1四半期	2,213	6.8	△182	—	△207	—	△149	—
24年8月期第1四半期	2,072	20.2	△44	—	△71	—	△62	—

(注) 包括利益 25年8月期第1四半期 △147百万円(—%) 24年8月期第1四半期 △63百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年8月期第1四半期	△4,804.79	—
24年8月期第1四半期	△1,954.38	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年8月期第1四半期	10,190	1,585	15.5
24年8月期	10,390	1,782	17.1

(参考) 自己資本 25年8月期第1四半期 1,581百万円 24年8月期 1,775百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年8月期	—	1,250.00	—	1,750.00	3,000.00
25年8月期	—	—	—	—	—
25年8月期(予想)	—	1,500.00	—	1,500.00	3,000.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年8月期の連結業績予想(平成24年9月1日～平成25年8月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	5,114	12.0	224	△24.7	160	△35.9	36	△79.9	1,190.67
通期	10,504	12.2	575	8.2	458	2.5	176	1.1	5,712.97

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 ー社(社名)ー、除外 ー社(社名)ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年8月期1Q	33,436株	24年8月期	33,322株
② 期末自己株式数	25年8月期1Q	2,383株	24年8月期	2,383株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年8月期1Q	31,036株	24年8月期1Q	32,212株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

- ・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ではありますが、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は完了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	P. 2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	P. 2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	P. 3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	P. 3
2. 四半期連結財務諸表 .....	P. 4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	P. 4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	P. 6
四半期連結損益計算書 .....	P. 6
四半期連結包括利益計算書 .....	P. 7
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	P. 8
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	P. 8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、復興需要の下支えにより緩やかな回復基調にありましたが、海外景気の減速や円高等を背景に足元では大幅に悪化しており、デフレ経済の脱却と円高傾向の抑制が早急の課題となっております。

当社が属するサービス・娯楽業におきましては、レジャーの多様化による需要の分散と消費者の節約志向・低価格志向の常態化により、厳しい市場環境となっております。

このような経済環境の下、当社グループは、主力事業であるカラオケルーム運営事業に対して集中的に資源を投入し、新規出店及び既存店のリニューアルを積極的に推進し、収益基盤の拡大を図りました。

当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高2,213百万円（前年同四半期比6.8%増）、経常損失207百万円（前年同四半期経常損失71百万円）、四半期純損失149百万円（前年同四半期四半期純損失62百万円）となりました。

セグメントの業績は次のとおりです。

以下の売上高にはセグメント間の内部売上高又は振替高を含んでおります。

## (カラオケルーム運営事業)

当社グループが主力事業を展開するカラオケルーム業界におきましては、2011年のカラオケ参加人口が約3,910万人（レジャー白書2012）と推測され、東日本大震災の影響もあり前年比16.5%程度の減少となっております。近年における大手チェーン店は、競争激化の状況を背景に質の高い店舗設備（音響・映像機器、内装設備、接客家具など）やアメニティ設備の提供に取組んでおり、接遇の質も向上させるなど、サービス全体の底上げを行っております。

このような環境の下、当事業におきましては、基本戦略として積極的な出店による事業規模の拡大に取組むとともに、既存店のリニューアルによる店舗設備の刷新に取組みました。また、独自性を図る目的で、従来からの鉄人システムによる50万曲を超える豊富な楽曲の提供に加え、当社独自分析により来店動機に寄与する音楽ジャンル（インディーズ、アニメ、ボーカロイド<sup>※1</sup>、K-POP等）を追究し、当社のオリジナル楽曲として提供しております。

業績面におきましては、新店におけるインシヤルコストの負担影響と一部地域において競合出店によるシェア減少により比較可能な既存店<sup>※2</sup>の売上高が前年同四半期比93.0%となるなど、厳しい営業状況となりました。

出店面におきましては、4店舗の新規出店を実施し第2四半期連結会計期間に出店予定の新店を1店舗確保いたしました。また、既存店3店舗でリニューアル及び設備の改善を実施し、店舗設備面での競争力を向上させました。

営業面におきましては、顧客ニーズを掘下げたオリジナル楽曲の配信とこれらに関連するイベントの開催を推進するなど当社オリジナル楽曲ファン層の取込みに努めました。

店舗運営面では引き続き、店舗における全般的な品質の向上（機械設備、店舗設備、接客対応）に取組んだほか、安全性と店内環境の改善を考慮した取組みを推進いたしました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は1,741百万円（前年同四半期比7.4%増）、セグメント損失（営業損失）は55百万円（前年同四半期セグメント利益（営業利益）68百万円）となりました。

※1 ボーカロイドはヤマハ株式会社の登録商標です。

※2 比較可能な既存店とは、営業開始後12ヶ月を経過して営業を営んでいる店舗で前年対比が可能なものをいいます。

以下、同様であります。

## (フルサービス型珈琲ショップ運営事業)

喫茶店業界におきましては、2011年の市場規模は約1兆182億円（外食産業統計資料集）で前年比0.1%減と推測されており、個人消費が低迷し、デフレ傾向が続く中において堅調な推移となっております。

当事業におきましては、景気低迷の影響を受けることなく比較可能な既存店の売上高が前年同四半期比102.6%となり、業績は想定以上で推移いたしました。

営業面におきましては、9月から秋限定のメニューを提供し、12月からは冬季限定のメニューの提供を予定しております。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は162百万円（前年同四半期比2.0%減）、セグメント利益（営業利益）は8百万円（前年同四半期比40.0%増）となりました。

## (C/P事業)

当事業におきましては、「カラオケの鉄人モバイル」（以下、「カラ鉄モバイル」という。）サイトを中心とした会員数が微増傾向での推移となりましたが、競合サイトの撤退や効率的なサイト運営で会員獲得コストが大幅に減少したことにより当社グループの業績に貢献いたしました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は139百万円（前年同四半期比3.6%減）、セグメント利益（営業利益）は17百万円（前年同四半期比21.5%減）となりました。

## (その他)

その他の業績概要は、以下のとおりです。

ビリヤード・ダーツ遊技場運営事業におきましては、一時のダーツブームから需要が減少しており、低価格による競争激化と併せて依然厳しい経営環境が続いております。

まんが喫茶（複合カフェ）運営事業におきましては、飽和した商圏において競合環境の厳しさは増しており、新たなサービスの市場投入もなく、業績は低迷いたしました。また、当第1四半期連結累計期間において1店舗を閉店しカラオケ店に転用したため、売上高は前年同期に比べ減少いたしました。

音響設備販売事業におきましては、カラオケ機器及び周辺機器の販売並びに同機器のメンテナンス業務を行ないま

した。

台湾における100%子会社(鐵人化計画(股)有限公司)につきましては、決算月の関係で直近7月から9月の業績を第1四半期として取込んでおりますが、損益面での影響は軽微であります。なお、同社は2012年9月末時点で直営店として「日式レストラン」2店舗(台北市1店舗、台中市1店舗)、「コンセプトカフェ」1店舗(台北市)、業務委託型店舗として「拉麵店」3店舗(新北市1店舗、台北市2店舗)を運営しております。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は292百万円(前年同四半期比26.0%増)、セグメント損失(営業損失)は0百万円(前年同四半期セグメント損失(営業損失)11百万円)となりました。

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

### (資産)

当第1四半期連結会計期間末における、資産の合計は、10,190百万円となり、前連結会計年度末に比較して200百万円減少いたしました。

流動資産は、3,247百万円となり、同576百万円減少いたしました。主な要因は、現金及び預金が705百万円減少したことなどによるものであります。固定資産は、6,943百万円となり、同376百万円増加いたしました。主な要因は、カラオケ店舗の出店による有形固定資産及び差入保証金の増加などによるものであります。

### (負債)

当第1四半期連結会計期間末における、負債の合計は、8,605百万円となり、前連結会計年度末に比較して3百万円減少いたしました。主な要因は、長期・短期借入金が94百万円減少したことなどによるものであります。

### (純資産)

当第1四半期連結会計期間末における、純資産の合計は、1,585百万円となり、前連結会計年度末に比較して196百万円減少いたしました。主な要因は、利益剰余金が203百万円減少したことなどによるものであります。

## (3) 連結業績予想に関する定性的情報

当社グループの業績は、その事業規模からカラオケルーム運営事業に大きく依存しております。カラオケルーム運営事業は、忘年会等が行われる時期を含む第2四半期と歓送迎会等が行われる時期を含む第3四半期に売上が偏重する傾向があるため、各四半期の業績が必ずしも通期の業績に連動するとは限りません。

また、長期的な景気低迷の中で消費者マインドの低下や「不要不急」な消費の抑制によりレジャー施設への集客が大幅に減少するなど当社グループの営業努力で解決できない事態となった場合には、業績が影響を受ける可能性があります。

以上のことを踏まえた平成25年8月期の業績予想は以下のとおりです。

カラオケルーム運営事業におきましては、長期化した景気低迷によるカラオケ需要の減少や当社出店地域における競合店の相次ぐ出店による厳しい経営環境下であり、新店のイニシャルコスト並びに既存店のリニューアルに係るコスト負担があるものの、当期計画に一定程度の影響を折込んでいるため、概ね予定通りの業績を見込んでおります。

フルサービス型珈琲ショップ運営事業におきましては、引続き好調な業績を見込んでおります。

CP事業におきましては、「カラ鉄モバイル」の会員が堅調に推移していることと、会員獲得コストの効率が向上していることから業績への更なる貢献を見込んでおります。

その他におきましては、複合カフェ運営事業は当第1四半期連結累計期間において1店舗を閉店しており、ビリヤード・ダーツ遊技場運営事業は業績低迷が続いており、今後も厳しい状況で推移するものと見込まれますが、計画上的程度でのマイナスを見込んでいるため、業績予測への影響は軽微なものと判断しております。

鐵人化計画(股)有限公司におきましては、現時点で見込まれる業績が小規模のため、連結業績に与える影響は軽微であると見込んでおります。

以上の状況により、現時点における当期の業績見通しは、平成24年10月12日に公表いたしました平成25年8月期の通期の業績予想に変更はありません。

なお、中間期前後において、海外でのカラオケ店舗の出店を計画しておりますが、計画段階であり業績見込みを検討中であるため、今回の業績予想に反映しておりません。

※当該業績予想については、現時点において入手可能な情報に基づき当社グループが判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績はこれと異なる可能性があります。

4. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,060,534	2,354,922
受取手形及び売掛金	153,740	180,804
商品及び製品	9,293	9,104
仕掛品	450	3,845
原材料及び貯蔵品	110,487	125,815
その他	491,515	574,430
貸倒引当金	△1,904	△1,785
流動資産合計	3,824,117	3,247,136
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,801,154	3,025,199
工具、器具及び備品（純額）	297,631	336,685
その他（純額）	926,515	987,211
有形固定資産合計	4,025,301	4,349,096
無形固定資産		
のれん	286,494	267,598
その他	97,814	93,016
無形固定資産合計	384,308	360,615
投資その他の資産		
差入保証金	1,752,630	1,813,013
その他	432,911	447,357
貸倒引当金	△28,452	△26,436
投資その他の資産合計	2,157,089	2,233,933
固定資産合計	6,566,700	6,943,646
資産合計	10,390,818	10,190,782

（単位：千円）

	前連結会計年度 (平成24年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年11月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	213,876	212,993
短期借入金	208,260	189,920
1年内返済予定の長期借入金	2,536,787	2,420,649
1年内償還予定の社債	230,000	230,000
未払費用	526,094	600,412
未払法人税等	114,990	20,742
賞与引当金	6,885	5,937
ポイント引当金	13,083	13,693
その他	316,233	417,836
流動負債合計	4,166,210	4,112,185
固定負債		
社債	270,000	190,000
長期借入金	3,836,885	3,876,645
資産除去債務	20,893	25,635
その他	314,776	400,953
固定負債合計	4,442,555	4,493,235
負債合計	8,608,765	8,605,420
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	740,066	743,509
資本剰余金	733,223	736,667
利益剰余金	482,480	279,215
自己株式	△176,550	△176,550
株主資本合計	1,779,221	1,582,842
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△2,636	△1,672
為替換算調整勘定	△704	△140
その他の包括利益累計額合計	△3,340	△1,812
新株予約権	6,171	4,331
純資産合計	1,782,052	1,585,361
負債純資産合計	10,390,818	10,190,782

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 四半期連結損益計算書  
 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年9月1日 至平成23年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年9月1日 至平成24年11月30日)
売上高	2,072,621	2,213,706
売上原価	1,836,657	2,079,186
売上総利益	235,964	134,519
販売費及び一般管理費	280,244	316,524
営業損失(△)	△44,279	△182,005
営業外収益		
受取利息	48	66
受取配当金	156	156
協賛金収入	10,359	10,359
設備賃貸料	1,165	1,165
その他	4,670	7,902
営業外収益合計	16,399	19,649
営業外費用		
支払利息	25,434	29,534
社債発行費	1,909	—
支払手数料	12,356	14,751
その他	4,419	1,122
営業外費用合計	44,119	45,407
経常損失(△)	△71,999	△207,763
特別利益		
固定資産売却益	250	35
新株予約権戻入益	—	77
特別利益合計	250	113
特別損失		
固定資産売却損	2,431	—
固定資産除却損	7,015	1,849
減損損失	7,649	—
特別損失合計	17,096	1,849
税金等調整前四半期純損失(△)	△88,845	△209,499
法人税、住民税及び事業税	13,224	17,267
法人税等調整額	△39,115	△77,645
法人税等合計	△25,891	△60,378
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△62,954	△149,121
少数株主利益	—	—
四半期純損失(△)	△62,954	△149,121



四半期連結包括利益計算書  
第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年9月1日 至平成23年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年9月1日 至平成24年11月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△62,954	△149,121
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△976	963
為替換算調整勘定	—	564
その他の包括利益合計	△976	1,527
四半期包括利益	△63,930	△147,593
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△63,930	△147,593
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

（3）継続企業の前提に関する注記

当第1四半期連結累計期間（自 平成24年9月1日 至 平成24年11月30日）  
該当事項はありません。

（4）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第1四半期連結累計期間（自 平成24年9月1日 至 平成24年11月30日）  
該当事項はありません。